

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年12月24日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873700413		
法人名	有限会社 熊野屋商事		
事業所名	高齢者グループホーム ほたるの里	ユニット名	Aユニット
所在地	〒311-1704 茨城県行方市山田104-21		
自己評価作成日	平成25年4月15日	評価結果 市町村受理日	平成25年12月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0873700413-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0873700413-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年9月24日	評価機関 決 裁 日	平成25年12月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様の第二の住処としてその人らしい生活が送れるよう、スタッフが共通の意識の中で取り組んでいる。  
家族・地域の方との交流や、ボランティア、近隣の幼稚園、小生ととの触れ合いを密にし孤立しないための援助を行っている。職員付き添いによる受診や病院との連携を充実させ、どんな小さな症状も家族に連絡し即対応を心がけている。  
外出（ドライブ）・散歩・レクリエーション・お誕生会など様々な行事を取り入れ、季節感や生活の中でのリズムを失わないよう支援している。  
スタッフが家族と同じように関われる事を大事にしている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はカラオケハウスだった建物を改修して使用しているため、至る所に段差や柱などがあり障害となっているが、職員は限られたスペースの中で試行錯誤しながら利用者の弊害にならないよう、すのこを利用して段差をなくすなどの工夫をしている。  
利用者が地域の中で楽しく充実した生活ができるよう、歌や舞踊などのボランティアを受け入れたり、小学生や幼稚園児との交流を図っているほか、5月の皞月祭には地域の人々や家族等を招待したりして、積極的に地域との交流の機会を設けている。  
法人の系列に医療機関や特別養護老人ホーム、老人保健施設があるため、医療面において利用者や家族等の安心につながっているほか、利用者の健康状態に応じて福祉サービスが提供できるよう連携を図っている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の人権を尊重し、住み慣れた環境を活かし、充実した最高の生活を送れるよう支援する」との理念を運営規定に明記、玄関や事務所やほたる便りに掲示し、朝礼や会議などで唱和し共有を図り実践に努めている。	職員で話し合い、「利用者の人権を尊重し、住み慣れた環境を活かし、充実した最高の生活を送れるよう支援する」との、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。 理念を運営規程や毎月家族等に送付している「ほたる便り」に記載するとともに、玄関や事務室、各ユニットのホールに掲示したり、朝の申し送り時に唱和したりして共有を図っている。 管理者や職員は月1回の全体会議において、理念にそったケアサービスが提供されているかどうかを話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物などで地域の方との挨拶を交わすなど日常的に地域との交流を深めている。皐月祭に地域の方やボランティアを招待し交流を深めている。老人会行事に健康に関する講話（楽々教室）を行っている。日本舞踊、幼稚園児の遊戯など受け入れられている。	毎年小学校の運動会に招待され、利用者は職員と一緒に借り物競走や玉手箱競技に参加し、楽しい時間を過ごしている。 日常的な散歩や買い物時に地域の人々と挨拶を交わしたり、舞踊や歌のボランティアを受け入れたりしているほか、幼稚園児の来訪や事業所の祭りを通して利用者が家族等や地域の人々と交流ができるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者との暮らしに役立つ交流として、楽々教室、クロッキー大会、ボランティア受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員や家族代表、老人会会長、民生委員、事業所職員で構成し、2ヶ月に1回の会議を行う。行事、防災訓練、講話など多種多様にニーズにあった内容や、各委員からの意見や要望に沿った内容を話し合う。欠席した方には議事録等を郵送している。	運営推進会議は家族等や市職員、老人会会長、民生委員で2ヶ月に1回開催している。 会議が行事報告や利用者の状況報告だけにならぬよう、会議の最後に次回の議題を決め、その議題について話し合い、欠席した委員には必ず会議録を送付している。 会議で出た意見や課題は全体会議で話し合っており、委員の意見を受けて新たに備蓄品のリストを作成したり、薬剤師を呼んで職員と家族等に薬の副作用についての研修を開催するなど、サービスの質の向上に努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議委員の市の担当者から情報提供を受け、共通理解を図っている。毎月のケアマネ定例会に参加し、情報収集交換をしている。	地域包括支援センターと介護福祉課の職員が運営推進会議に参加しているほか、職員は市担当者を訪問して事業所の現状を伝えたり、電話で困りごとを相談して助言を得るなど、連絡を密に取りながら協力体制を築いている。 市主催の交通安全講習会に職員が参加したり、地域の介護支援専門員の定例会に参加したりして市担当者と情報交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。またその旨を入居契約時に本人家族に説明している。	身体拘束をしないケアのリスクについて、契約時に利用者や家族等と話し合っている。安全を考慮し、利用者や家族等の同意を得たうえで2階の居室の窓のみ開閉制限を行っているが、玄関を施錠したり行動制限をするようなケアは行っていない。 職員は年間研修計画にそって身体拘束をしないケアに関する研修を受講し、禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為とその弊害を理解するとともに、身体拘束をしないケアに努めている。 身体拘束の同意書や経過観察記録、検討記録など、やむを得ず身体拘束をする場合に備えて書類を整備するまでには至っていない。	やむを得ず身体拘束をする場合に備え、同意書や経過観察記録、検討記録などの書類を整備するとともに、身体拘束を行った場合は記録することを期待する。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	意見交換、利用者の対応について管理者を含め職員間で学ぶ機会を持ち十分に注意し防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者個々の生活状態像の把握や家族状況意向の把握をしながら、適宜必要性を判断し、関係諸機関との連携の上活用できるようにしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章及び口頭にて分かり易く説明している。時間をかけて不安や疑問点を尋ね、理解と納得のうえで契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書に事業所や第三者機関の苦情窓口を明記している。月1回の「ほたる便り」で利用者の様子を伝えたりアンケートを実施し運営に反映させている。行事にあわせ家族会も実施している。	管理者や職員は家族等の来訪時や病院受診の結果報告時、運営推進会議で利用者や家族等の意見や要望を聴き、運営に反映させている。 意見箱を設置するとともに、年1回行事に合わせて家族会を開催したり、家族アンケートを実施したりして意見を汲みあげ、出た意見等を受けてカーテンのフックを修繕するなど、迅速に対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日のミーティング、日々の記録、ケアカンファレンス等を通じて職員から出た意見や提案を適宜運営に反映させている。職員にはそれぞれの役割分担がなされており、個人のアイディアを活かした取り組みがなされている。	管理者は職員の希望を聞いたうえで勤務表を作成したり、急な職員の休みにも勤務体制を変更したりするなど、柔軟な対応を行っている。 管理者は毎月の全体会議で入浴や食事、医療など、数項目について職員から問題点や意見を汲みあげており、出た意見等を考慮して脱衣所に暖簾を下げるなど、できる範囲で運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが、やりがいを持てる環境、条件の整備に努めている。相談があれば即対応を心がける。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は段階的に参加できるようにし、その後勉強会や講習会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	それぞれの施設との情報交換を行ったり、策定委員会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴、ADL等把握する事により、利用者のケアプラン作成を行う。必ず傾聴の姿勢で求めている事を受け止める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	言葉に表現できる思いや、反面奥にある言葉に出来ない不安を傾聴し、利用者にも家族にも安心して利用して頂けるように常に信頼関係を築けるようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に家族が求めているものを見極め、自己決定を含めて希望を伺うように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でお互いが支えあう関係作りに配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場を理解し、カンファレンスを行い、ゆっくり話が出来る機会を作り電話や手紙などで相談報告をし本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人の面会があるほか、電話や手紙などを利用して馴染みの関係が途切れないよう家族と協力して支援している。	職員はフェイスシートや日々の会話の中から、利用者の生活歴や馴染みの人・場所との関係を把握しており、馴染みの商店などへ家族等の協力を得ながら出かけられるよう支援している。 毎年利用者は年賀状を書いて職員が投函しているが、年賀状を書くことが困難な利用者の中には、年の瀬に職員が家族等に電話を取り次ぎ、今までの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩、レクリエーションの参加、ドライブなど孤立せずに関わり合う機会がもてるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談しやすい環境を作っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中でお互いが支えあう関係作りやコミュニケーションに配慮し、要望や意見を把握するよう努めている。意思疎通が困難な場合は職員間で意見交換し、利用者の立場で考え支援している。ケアプラン送付時に家族の思い等を記載して頂き役立てている。	職員は毎月嗜好調査を実施し、利用者の意向の把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者の場合は、家族等に利用者の好きだった歌などを歌ってもらい、録音して聞かせるなど、事業所独自の取り組みを行っている。 職員は家族等から情報を得るとともに、利用者との日々の係わりの中で表情や言動から思いを推し測るほか、利用者本位のケアについて職員で話し合って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から様子を伺ったり、生活歴を把握し、環境が大きく変わることなく、馴染みの暮らしが出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りの強化、毎日のバイタルチェックなど心身の状態の変化も見逃さず事無く把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の希望の聞き取りや推察をし、家族には直接のほか、定期的に意見要望の類を書類にて打診している。定期的な見直しと作成前のアセスメント、カンファレンスも適宜実施している。	利用者の現状に即した個別の介護計画を作成するため、利用者や家族等の意見や要望を聞くとともに、日々の記録を基に職員が参加するケアプラン会議で話し合い、職員の意見や利用者毎の担当職員の意見を取り入れながら計画作成担当者が中心となって介護計画を作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを実施し、短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に見直すほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケア、その他心身の状況を記録し、情報を共有して計画作成に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所介護の休業日などは、利用者開放し、ホットパック（温熱機）やメドマー（足マッサージ機）などを利用している。ショートステイも可能。家族が宿泊できるような体制も整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各資源を必要に応じて協力してもらう体制を整えている。防災訓練、交通安全講話など。震災時には行政、各業者との連携、支援物資の調達などありとあらゆる手段を講じ危機を乗り越えた。何よりもチームワーク一致団結と組織の力が重要である事を認識した。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等が希望するかかりつけ医との関係を大切にし、適切な医療を受けられるよう支援している。協力医療機関から週1回の応診があり健康管理の支援をしている。定期受診や健康状態に合わせて適宜の受診にも対応している。結果は利用者や家族等に報告するとともに、記録して職員で共有している。	利用者が希望する近隣のかかりつけ医への受診は職員が付添っているが、遠方の医療機関を受診する場合は家族等の協力を得ている。 24時間対応の協力医療機関の医師による週1回の訪問診療を受診することができ、適切な医療を受けられるよう支援している。 受診結果は必ず電話で家族等に報告するとともに、ケース記録に記載して職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院、かかりつけ医院の看護師との連携を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換に努め、早期退院にむけての相談も行っている。見舞い、場合によっては洗濯も行う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り対応のマニュアルを参考に契約書には指針を明記している。事業所でできる事、できない事を説明し、職員間で対応方針を共有している。県主催の研修会に応募したが、定員越えで参加出来ず、次の日程待ち。現段階では入所家族からの看取りの相談は無い。	医師により回復の見込みがないと判断され、利用者が当該事業所での看取りを希望し、事業所の体制が整った場合には看取りの実施を検討することを契約書に明記し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 看取りのマニュアルを作成するとともに、医療機関と終末期の協力体制を構築している。 昨年重度化や終末期に関する職員研修を行い、終末期ケアの支援体制を強化している。 医療機関への搬送基準マニュアルを作成し、看護職員の判断により柔軟に対応しているが、重度化の判断基準や重度化した場合の事業所の対応指針を明確にするまでには至っていない。	重度化した場合の対応指針を明文化し、事業所でできることとできないことを利用者や家族等に説明することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応マニュアルをもとに行っている。夜間待機者をおくとともに、震災で得た教訓をもとに緊急連絡の強化と訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署のもと夜間想定を含めた避難訓練を実施し記録している。震災時の教訓で停電時の対応、非常食などの確保、利用者の非難経路などを強化している。運営推進会議委員の方（地域代表者や民生委員）近隣の方との連携に勤めている。	消防署立会いの避難訓練と夜間を想定した自主訓練を年4回実施し、記録に残している。 近隣の食堂と災害時における協力体制を構築しており、合同の避難訓練も実施している。 東日本大震災の教訓をもとに事業所の課題を職員で話し合い、懐中電灯を要所要所に置くなど、停電時の対応を決めたほか、備蓄品のリストを作成しているが、チェックした日時や担当者を記載するまでには至っていない。	近隣の食堂のみならず、地元住民の参加を得ながら避難訓練を実施し、相互に支え合う関係づくりに取り組むことを期待する。 備蓄品には缶詰など賞味期限がある物もあるため、期限や在庫をチェックするとともに、チェックした日時や担当者がわかるよう記載することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシーを大切にし、日々の関わりや、震災での心のケア等に努めている。情報の漏洩には十分配慮している。個人情報については家族の同意のもと書類管理に留意している。	職員は定期的に接遇に関する研修を受講し、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしたケアを心がけるとともに、適切な言葉かけや対応に努めている。 特にトイレ誘導や排泄介助時には業務的にならないよう、利用者の耳元で小声で話しかけ、プライバシーを損ねない対応に努めている。 契約書など個人情報に関する書類は事務室で一元的に管理し、情報の漏洩防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず本人の意志を確認し、促すようにしている。押し付けたりしないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人ひとりの介護度に応じたペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類、清潔感を大切に、毎月1回第一月曜日を散髪日に設けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査をしたり、好みを取り入れた献立や外食を支援している。利用者の食事形態に応じ、刻み食やペースト状にして提供しているほか、利用者を介助しながら楽しく会話し一緒に食事をしている。利用者はできる範囲で食事の準備や後片付けをしている。	毎月利用者の嗜好調査を行い、献立に好みの食べ物を取り入れたり、刻み食やペースト食など、利用者一人ひとりの嚥下能力の状態に応じた食事を提供している。利用者はできる範囲で下膳や台拭きなどを職員と一緒にやっている。誕生日には家族等と一緒に外食に出かけるほか、年末の「お疲れさま会」では出前を取り、食事を楽しめるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとの食事形態や時間、体調に配慮し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の口腔ケア、歯磨き、うがいを励行している。義歯の歯損時は協力歯科医院で修理を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者1人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、時間を見計らって声掛けや誘導をし、トイレで排泄できるよう支援している。身体機能に合わせた支援を行い、脱水防止策でチェック表も活用している。	職員は利用者一人ひとりの排泄チェック表を基に時間を見計らって声かけをしたり、利用者のサインを察知してトイレ誘導をし、日中はトイレで排泄ができるよう支援をしている。数種類のパッドやおむつを準備し、利用者の体型や残存能力に合わせて使用している。便秘対策として職員が腹部マッサージを行ったり、食事に飲むヨーグルトを取り入れたりしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、体操、散歩を取り入れ、食物繊維も多く取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望にそって、いつでも入浴できるように支援をしている。車椅子利用の利用者は併設している通所介護事業所の大浴場に入浴している。シャワー浴、足浴、清拭などそれぞれの状況に合わせて支援を行っている。	利用者の希望にそって毎日いつでも入浴ができるよう支援している。 希望があれば併設する通所介護事業所の大浴槽を利用することができ、利用者はゆったりと温泉の入浴を楽しんでいる。 体調が悪いなどで入浴ができない場合は清拭やシャワー浴などで対応し、身体の衛生管理に努めている。 入浴を楽しむために菖蒲湯や柚子湯を取り入れ、季節を感じながら入浴ができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるように、それぞれのペースにあわせたり、リラックスが出来る飲み物などで対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理指導の導入、薬剤師との連携相談の他、職員は内服前の薬剤の複数確認、服薬補助、服薬確認をし更にチェック表を用いて最終確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の身体機能や生活歴、趣味や特技に応じた気晴らし支援を行っている。掲示板には写真、壁面には作品で装飾している。毎日のラジオ体操後には、皆でリハビリ体操や歌唱などで和やかに過ごせるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	事業所周辺の散歩や近隣のドライ ブなど、利用者の希望にそって季 節が感じられるような外出支援を 行っている。利用者は景色の良い ベランダにテーブルを置き、食事 やお茶を楽しんでいる。外食も 行っている。	季節毎の外出のほか、毎週日曜日にはド ライブや買い物に出かけ、利用者が室内に 閉じこもらないよう支援している。 外出が困難な利用者の場合は、天気の良い日 に北浦湖畔が一望できる眺めの良いベ ランダに出て、お茶や食事を摂りながら気 分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	職員が見守る中、個人がお金を支 払ったり、お金の大切さを理解 し、自由に使えるように支援して いる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	希望に応じ、いつでも利用出来る ように支援している。「ほたる便 り」などで家族にも郵送し月の予 定や写真を掲載し、近況を報告し ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	共有空間は、ソファを用意し、 利用者の写真や作品を飾り、家庭 的な雰囲気を取り入れて、居心地 良く過ごせるように工夫をしてい る。手作りの作品や、行事予定な ど掲示している。	食堂や廊下の壁面には利用者の習字や作 品のほか、行事で撮影した写真を掲示して いる。 食堂ホールの隅には小あがりの畳スペー スがあり、タンスや茶卓、テレビなどが置 かれ、家庭的な雰囲気の空間となってお り、利用者は食事を摂ったり、横になって テレビを見たりして寛いでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が思い思いに過ごして頂けるように、現空間を利用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にぬいぐるみ、シルバーカー、日用品など馴染みの物品などを持ち込み、安心して生活できるよう工夫している。	利用者は家族等と相談しながら電気ポットやハンド掃除機などを持ち込んでいる。 居室への持ち込み品の制限はなく、趣味のプロジェクターとスクリーンを持ち込んで写真や映画を観賞する利用者があるなど、居室でも楽しみながら過ごせるよう支援している。 居室にはベッドが備え付けられているが、希望にそってカーペットに布団を敷いて寝てもらするなど、利用者が居心地よく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは開けやすいように、アコーディオンカーテンにしたり、バリアフリー、手すりなど安全に努めている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 高齢者グループホーム ほたるの里

作成日 平成25年12月16日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	現状身体拘束を行っていないが、将来的にやむを得ず行う場合のそれに係る書類等の整備がなされていない	身体拘束に必要な書類の整備および知識の構築	必要書類の把握と作成 定期的な身体拘束の勉強会の実施計画	1ヶ月
2	33	重度化した場合の対応指針が明文化されておらず早い段階での対応が不十分である	重度化の対応指針を明確に文章化する	対応マニュアルの作成 施設で行えることを説明し、方針を共有する	1ヶ月
3	35	自主訓練は定期的に行っているが、実際の災害を想定した、近隣参加の訓練が行われていない 備蓄品の管理が不十分である	近隣を交えて非難訓練を行う 備蓄品の管理の徹底	地元住民参加型の避難訓練の実施 備蓄品の管理（賞味期限・チェックリストの作成）	1ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。